

式 辞

いつになく早い春の訪れを感じる今日の佳き日に、

大阪府立 泉陽 高等学校第72回卒業証書授与式を
挙行できますことは、教職員一同この上もない喜びです。

今年の卒業式は新型コロナウイルスへの感染拡大防止の
ため、72期生と我々教職員だけで実施することになりま
した。少し寂しい気持ちもありますが、きつと生涯の記憶に
残る式になると思います。

さて、ただ今、卒業証書を授与しました359名の皆さん、
卒業おめでとございます。

72期生は、10クラスから9クラスに募集人員が減少
されたことで、1.57倍という高倍率になり、それを突破
して、泉陽高校に入学してきました。360人それぞれが
個性を持ち、様々なタイプの生徒同士が、互いに認め合い、
尊重し合える雰囲気を持った学年でした。

また、自由な雰囲気の中で過ごした3年間で学習面でも
大きく伸び、自ら考え自ら行動できる生徒が多い学年
でした。

1年最初の校外学習で訪れた舞洲アリーナでは、プレ・
クラスマッチを行いました。運動の苦手な生徒のことも考え
て、綱引き大会を行い、72期生としての良いスタートが
切れました。

2年のグアム修学旅行では、PICの野外ステージで行った、全体レクで魅せた72期生のパワーには感動しました。さらに、英語でコミュニケーションをとって過ごした4日間はとても良い経験になりました。

体育祭では、学年の枠を超えて4つの応援団が、団ごとに競技や応援に取り組みました。特に3年生では、団長を中心にリーダーシップを発揮して1・2年生を見事にまとめてくれました。泉陽生全員がアクセル全開で限界突破し「エネルギーシユ泉陽」になった一日でした。

文化祭では、「作り上げよう！共有しよう！かけがえない瞬間を」というスローガンのもとで、3年生9クラスが模擬店に挑戦しました。どのクラスも創作意欲あふれた独創的な装飾で、味だけでなく笑顔という最高のおもてなしを提供し、かけがえのない瞬間を共有した2日間でした。

人は結果よりも、そこに至るまでの過程や頑張りを
見て感動します。私は、そうした皆さん一人ひとりの営み、
そして成長に大きな拍手を送りたいと思います。

このような生徒がたくさん学び、卒業していくこと、
それが泉陽高校の最大の誇りです。

皆さんは高校卒業後、大学などに進学し、いずれ社会
に出て職業につき働くことになります。

やがて訪れる、Society5.0(超スマート社会)を生き抜く
たくましさや知識の基礎を、泉陽高校で学びました。

予測困難な社会の変化の中で豊かに生きるためには、楽観論でも悲観論でもなく、変化に対して受け身でなく、めざすべき社会像を議論し、共有し、実現していくことが重要です。経済性や効率性、最適性だけを追求するのではなく、あくまでも人間を中心として、ひとり一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる、そんな人になつてほしいと思います。

長い人生を一日に例えれば、皆さんはまだ朝の早い時間を過ごしているにすぎません。これからの長い一日をどのように過ごすのか、どのような道を歩むのか。決めるのは皆さん自身です。

まずは、「今の自分にしっかり向き合ってください。」そして、これから出会うさまざまな人と意見や思いが一致するとは限りませんが、それでも相手を理解したいという気持ちを持って接することで、相手も自分のことを理解してくれるようになります。お互いを尊重し、対話を重ねる中でこそ、「自分たちの常識を超えられる瞬間」が生まれます。

いよいよ泉陽を旅立つ時がやってきました。「今の自分を超える旅」に出ます。そこでは、社会の理不尽にふれたり、人に裏切られたりと、世の中に戸惑うことも度々あるでしょう。でも、そんな時に幸せになれる魔法の言葉を贈ります。

本校の卒業生で直木賞作家の「西加奈子」さんの「おまじない」という小説のなかの言葉です。

「あ、まじないや！ そう、まじないや縁起なんてな、自分で決めるもんやねん。だってな自分が幸せになるためのもんやろ？」

「おまじないなんやから。自分が幸せになる解釈をしたらええのや。」

結びに、皆さんの前途が健康で幸多からんことを祈念して式辞とします。

令和2年2月28日

大阪府立 泉陽 高等学校長 武田 温代